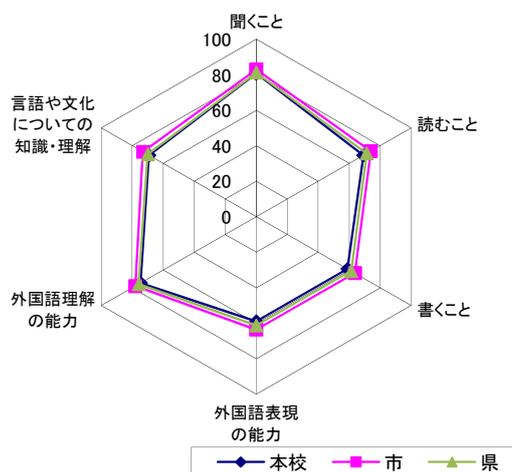


宇都宮市立田原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	80.7	82.9	81.2
	読むこと	69.1	73.9	71.2
	書くこと	58.9	63.6	61.2
観点	外国語表現の能力	58.9	63.6	61.2
	外国語理解の能力	74.6	78.1	75.9
	言語や文化についての知識・理解	69.2	73.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>市、県と比べて平均正答率は、他の領域に比べて高い。問題は、ひとまとまりの対話文を聞いて答えを選ぶ形式である。</p> <p>○総合的には正答率80.7%で、0.5ポイントほど県の平均を下回っているものの、ほとんどの問題で8割程度の正答率であった。特に、動物の数を聞き取る問題では、何と正答率100%(全員正解)であった。</p> <p>●相手の質問を聞いて適切に応答する問題の一つの正答率が58.6%で、10.6ポイントも県の平均を下回っていた。</p>	<p>今後も、普通の授業の中に可能な限り、まとまった量の英語を聞き取らせる指導を組み入れていきたい。その際、会話や物語の内容を追わせる上で、あまり詳細にこだわらずに話の流れをつかませ、あらすじを書かせたり、特に、ポイントとなる質問に答えさせるなどの活動を増やしていきたい。</p>
読むこと	<p>やや長い対話文や長文を読んで、必要な情報や内容について読み取る問題である。</p> <p>●総合的には正答率69.1%で、2.1ポイントほど県の平均を下回っている。特に、対話文のバス通学者の数に関する問題や、長文読解の大筋の概要をとらえる問題で、正答率が5~7ポイントほど県の平均を下回っていた。</p>	<p>電話、メール、道案内、買い物等、教科書の進度にあわせて様々な場面を設定して、全員にペアワークをさせていきたい。教科書の読み物教材を扱うときには、まずは、大雑把に読んだ後○×テストを行うなど、工夫をしたり、人称代名詞や不定代名詞や指示語が何をさしているかなどの問いかけをするなど、読み取り方にメリハリをつけさせたい。</p>
書くこと	<p>市、県と比べて平均正答率は、他の領域に比べて低い。現在進行形・過去形・対話文に当てはまる疑問文・自己表現英作文等の選択式・記述式の問題である。</p> <p>●総合的には正答率58.9%で、2.3ポイントほど県の平均を下回っている。特に、記述式の問題においては、自己表現の文での正答率が低かった。自分のするスポーツや好きな季節を書くことはできたが、それに続くプラスアルファの文を付け足すことができなかった。また、無回答の生徒も目立ち、英作文に対する苦手意識が表れている。</p>	<p>過去に学習した単語、熟語、慣用表現、基本文等を復習するために、家庭学習の課題として書き取りを課すなど、授業では確保しにくい英語を書いて練習する活動に取り組ませたい。作文に関しては授業での基本文定着活動や自己表現英作文に力を入れていきたい。その際、基本となる文に加えて、さらに2・3文の自己表現が続けられるように促していきたい。</p>